

中国庭園燕趙園の概要

令和 4 年 7 月 2 日
緑豊かな自然課

1 中国庭園の建設

- (1) 建設主体 鳥取県
- (2) 建設目的 鳥取県と中国河北省の友好提携 5 周年を記念し、その友好交流のシンボルとして建設
- (3) 面積 約 1 万平方メートル
- (4) 総事業費 約 20 億 6 千万円
- (5) 建設までの経緯
- 1986 (昭和 61) 年 6 月 鳥取県・河北省友好県省締結書調印
 - 1991 (平成 3) 年 6 月 友好県省提携交流促進覚書調印 (中国庭園建設への協力)
 - 1992 (平成 4) 年 4 月 中国庭園設計視察団の意見を参考に建設場所を決定。三方を山に囲まれ、しかも正面に美しい東郷湖を望むという中国庭園に理想的な立地を中国人視察団が評価されたもの。
 - 1993 (平成 5) 年 6 月 工事着手
 - 1995 (平成 7) 年 7 月 完成 (7 月 30 日開園)

2 「燕趙園」の名前の由来

中国戦国時代 (紀元前 475 年～221 年)、現在の河北省の北京を含めた北部が「燕」の国、南部が「趙」の国に属していたことから「燕趙園」と命名された。

3 庭園の概要

燕趙園は、設計から素材の調達、加工まで中国で行われた本格的な中国庭園である。

例えば、黄色の瑠璃瓦は山西省で焼いたもの、橋の欄干などに使用している漢白玉石や築山などに使用している約 3 千トンの自然石は河北省の燕山山脈から切り出したもので、建物は一度中国で仮組みしたものを解体した上で、船で境港に運び、再度、中国人技術者の指導を受けながら建設するなど、あくまでも中国にこだわった庭園である。

また、中国歴代の皇帝が造り親しんだ宮廷の庭園を再現しており、屋根には皇帝しか使用できない黄色の瑠璃瓦を使用し、建物には、中国人彩画師により描かれた皇帝を象徴する 5 本の爪の龍をはじめとする 2 千を超える彩画が施されている。その他、重さ 9 トンの燕趙門前の雌雄 1 対のシーザー、中国独特の技法で造られた石組、龍の雄姿を思わせる臥龍廊など燕趙園 28 景は本場の中国庭園を彷彿とさせる。

4 これまでの歩み

- 平成 7 年 中国庭園燕趙園を開園 (総事業費：約 20.6 億円、約 1 万平方メートル)
 <中国河北省の友好提携 5 周年を記念し、友好交流のシンボルとして建設>
- 平成 10 年 拡大区域 (横断陸橋、レストラン売店、駐車場整備) オープン
- 平成 11 年 イベント展示施設「集粋館」オープン
- 平成 17 年 改修工事が終了し、リニューアルオープン
 <平成 14 年度着手 屋根瓦の瓦葺き替え、彩画の描き替え>
- 平成 18 年 指定管理者制度「第 1 期：3 年間」スタート 「鳥取県観光事業団」
- 平成 21 年 指定管理者制度「第 2 期：5 年間」スタート 「鳥取県観光事業団」
- 平成 22 年 飲食施設リニューアルオープン 「鳥取県観光事業団」
 ※燕趙園本体とは別に「飲食施設」「売店」のみ指定管理 委託料なし>
- 平成 23 年 「道の駅」に登録
- 平成 26 年 指定管理者制度「第 3 期：5 年間」スタート 「鳥取県観光事業団」
 ※指定管理の対象に「飲食施設」、「売店」を含める。
- 平成 27 年 河北省来県団を招待し、開園 20 周年記念行事実施
- 平成 28 年 中部地震で一部破損し応急工事を実施
- 平成 31 年 指定管理者制度「第 4 期：5 年間」スタート 「鳥取県観光事業団」
 ※指定管理の対象に「老龍頭」を含める。
- 令和 3 年 中国河北省友好交流 35 周年記念事業実施 (オンライン、関連事業)